

## 甌島列島初記録のウメイロ (スズキ目フエダイ科)

畑 晴陵<sup>1</sup>・本村浩之<sup>2</sup><sup>1</sup> 〒 305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター<sup>2</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

## Abstract

A single specimen of the Yellowtail Blue Snaper, *Paracaesio xanthura* (Bleeker, 1869) (285.0 mm standard length), was collected from Shimokoshi-shima Island, Koshiki Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. It represents the first record of the species from the islands and also from the East China Sea side of the Kagoshima mainland.

## はじめに

フエダイ科アオダイ属 *Paracaesio* Bleeker, 1874 は日本近海においてアオダイ *Paracaesio caerulea* (Katayama, 1934), シマアオダイ *Paracaesio kusakarii* Abe, 1960, ヨゴレアオダイ *Paracaesio sordida* Abe and Shinohara, 1962, ヤンバルシマアオダイ *Paracaesio stonei* Raj and Seeto, 1983, およびウメイロ *Paracaesio xanthura* (Bleeker, 1869) の5種が知られており(島田, 2013), その全種が鹿児島県内から標本に基づき記録されている(Motomura et al., 2010; 江口・本村, 2016; Hata et al., 2017; 畑, 2018, 2019; Nakae et al., 2018; 小枝, 2018, 2020). そのうちウメイロは薩南諸島においては多く漁獲され, 鹿児島県内では「黄ホタ」と称され, 食用魚として重要である. しかし, 鹿児島県内のそのほかの地域における記録は少なく, 鹿児島湾と大隅半島東岸からの記録に限られる(今井・中原, 1969; 公益財団法人鹿児島市水族館公社, 2018; 小枝, 2018, 2020).

鹿児島県甌島列島の魚類相調査の過程において, 2015年4月13日, 下甌島産のウメイロ1個

体が鹿児島市中央卸売市場魚類市場に水揚げされた. 同標本は本種の鹿児島県東シナ海沿岸, ならびに甌島列島における初めての記録となるため, ここに報告する.

## 材料と方法

計数・計測方法は White and Last (2012) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, 体各部はノギスを用いて 0.1 mm まで計測した. ウメイロの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された甌島列島産標本 (KAUM-I. 71403) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている. 本報告中で用いられている研究機関略号は FAKU (京都大学舞鶴水産実験所); KAUM (鹿児島大学総合研究博物館); KPM (神奈川県立生命の星・地球博物館).

## 結果と考察

*Paracaesio xanthura* (Bleeker, 1869)

ウメイロ (Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 71403, 体長 285.0 mm, 生鮮時重量 0.7 kg, 鹿児島県甌島列島下甌島近海 (鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入), 2015年4月13日, 釣り, 畑 晴陵.

記載 背鰭鰭条数 X, 10; 臀鰭鰭条数 III, 8; 胸

Hata, H. and H. Motomura. 2021. First record of *Paracaesio xanthura* (Perciformes: Lutjanidae) from the Koshiki Islands, East China Sea, Japan. *Nature of Kagoshima* 47: 209–214.

✉ HH: Center for Molecular Biodiversity Research, National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba, Ibaraki 305-0005, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

Received: 21 January 2021; published online: 21 January 2021; [http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_047/047-043.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_047/047-043.pdf)



Fig. 1. Fresh specimen of *Paracaesio xanthura* (Bleeker, 1869), Shimokoshi-shima Island, Koshiki Islands, Kagoshima Prefecture, southern Japan. KAUM-I. 71403, 285.0 mm standard length.

鰭軟条数 17；腹鰭鰭条数 I, 5；側線有孔鱗数 70；背鰭前方鱗数 22；側線上方横列鱗数 9；側線下方横列鱗数 18；尾柄周圍鱗数 25；第 1 鰓弓上鰓耙数  $7 + 17 = 24$ 。

体各部の体長に対する割合 (%)：全長 131.2；頭長 28.3；吻長 8.9；眼窩径 7.4；眼後長 13.2；下顎先端から峽部先端までの距離 9.9；上顎長 11.4；上顎高 3.5；眼隔域幅 10.7；眼窩高 1.8；鼻孔間距離 0.6；後鼻孔から眼窩までの距離 3.0；体高 36.0；体幅 17.9；背鰭前長 37.2；腹鰭前長 37.2；臀鰭前長 63.2；尾柄長 21.7；尾柄高 9.4；背鰭基底長 49.9；背鰭第 1 棘長 6.4；背鰭第 2 棘長 12.4；背鰭第 3 棘長 14.5；背鰭第 4 棘長 14.8；背鰭第 5 棘長 13.8；背鰭第 6 棘長 11.9；背鰭第 7 棘長 10.8；背鰭第 8 棘長 9.9；背鰭第 9 棘長 9.7；背鰭第 10 棘長 8.8；背鰭最長軟条長 14.8；背鰭第 9 軟条長 14.8；最後背鰭軟条長 8.1；臀鰭基底長 22.0；臀鰭第 1 棘長 4.5；臀鰭第 2 棘長 6.7；第 7 臀鰭軟条長 11.2；最後臀鰭軟条長 8.0；尾鰭上葉長 36.3；尾鰭下葉長 31.3；尾鰭欠刻長 15.8；胸鰭長 33.8；腹鰭長 19.8。

体は前後方向に長い楕円形を呈し、側扁する。体背縁は吻端から背鰭第 7 棘起部にかけて緩やかに上昇し、そこから尾鰭基底上端にかけて極めて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起

部付近にかけて緩やかに下降し、そこから尾鰭基底下端にかけて緩やかに上昇する。眼と瞳孔はいずれもほぼ正円形を呈する。眼は吻端と尾鰭基底中央を結んだ線上に位置する。鼻孔は 2 対で目の前方、吻端よりもわずかに上方に位置する。前鼻孔と後鼻孔はともに背腹方向に長い楕円形を呈し、縁辺部には皮弁を伴わない。両唇は薄い。主上顎骨は前後方向に長い三角形を呈する。上顎後端は眼の前縁よりも後方に達するが、瞳孔前縁には達しない。上顎には小円錐歯が密生する。上顎の外側にはやや大きい円錐歯が 1 列に並ぶ。上顎前部には左側に 2 本、右側に 1 本の犬歯状歯をそなえる。鋤骨と口蓋骨には絨毛状の小円錐歯が密生する。下顎には小円錐歯が 1 列に並び、前部には前向きやや大きい円錐歯が数本ある。舌は無歯。胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりもわずかに後方、眼の下縁よりも下方に位置する。胸鰭基底下端は腹鰭起部よりもわずかに前方に位置する。胸鰭後端は尖り、背鰭第 11 棘起部よりも後方に達するが、臀鰭起部直上には達しない。胸鰭の上縁と下縁はともに丸みを帯び、上縁はわずかに上方に張り出し、下縁は上方に凹む。腹鰭の起部と基底後端は背鰭起部よりわずかに前方と背鰭第 3 棘基底直下にそれぞれ位置する。腹鰭の前縁と後縁はいずれもほぼ直線状。腹鰭は第 1 軟条が最長。腹鰭

外縁は起部から第1軟条後端にかけて緩やかに下降し、そこから最後軟条である第5軟条の後端にかけて上昇する。畳んだ腹鰭の後端は肛門にわずかに達しない。背鰭起部は腹鰭第3軟条起部直上に位置し、背鰭基底後端は臀鰭基底後端直上に位置する。背鰭外縁は起部から第3棘後端にかけて上昇し、そこから第5棘後端にかけては体軸とほぼ平行となり、その後第9軟条後端にかけて緩やかに下降する。背鰭軟条は後ろから2番目に当たる第9軟条のみ、わずかに糸状に伸長する。臀鰭起部は背鰭第1軟条起部直下に位置する。臀鰭外縁は起部から第3棘後端にかけて下降し、そこから第7軟条後端にかけて緩やかに上昇する。臀鰭軟条は後ろから2番目に当たる第7軟条のみ、わずかに糸状に伸長する。尾鰭は二叉型を呈し、深く湾入する。尾鰭両葉の後端はいずれも尖る。体は櫛鱗に被われる。胸鰭基底部は小鱗に被われ、腋部は無鱗。背鰭前方鱗被鱗域は瞳孔前縁直上よりもわずかに前方に達する。眼の周囲、吻部、両顎、前鰓蓋骨下部はいずれも無鱗。側線は鰓蓋上部後方から始まり、体背縁とほぼ平行に尾鰭基底部中央に至る。擬鰓上にはフィラメント状の鰓弁が密生する。鰓耙は棒状。

**色彩** 生鮮時の色彩 一体背面から体側上部にかけては濃青色を呈し、体側下部から体腹面にかけては灰白色となる。胸鰭基底よりも後方の体側上部には、尾柄部にかけて眼径よりも幅の広い黄緑色帯がはいり、尾鰭両葉の黄緑色域と連続する。黄緑色帯は前部ではやや幅が狭く、左右の黄緑色帯は背鰭基底縁辺部では濃青色域によって隔てられるが、尾柄部では左右で連続する。また、黄緑色帯下縁は背鰭起部よりも前方においては側線よりも上方に位置するが、背鰭起部よりも後方では側線よりも下方に達する。背鰭は鶯色を呈し、縁辺部は暗褐色。胸鰭と腹鰭の各鰭条は暗褐色を呈し、各鰭条間の鰭膜は白色半透明。臀鰭は一様に白色半透明を呈し、基底部付近は暗褐色。尾鰭両葉は黄緑色を呈し、外縁は白色。頭部は一様に暗褐色を呈し、眼よりも後方の鰓蓋側面は紫がかった暗青色。虹彩は銅色を呈し、瞳孔は暗青色。

**分布** アフリカ東岸から南日本、サモアにか

けてのインド・太平洋の広域に分布する (Allen, 1985; Anderson and Allen, 2001; 島田, 2013; Campos, 2017; Tanaka, 2019)。日本国内においては伊豆諸島、豆南諸島、小笠原諸島、硫黄島、南硫黄島、神奈川県三浦半島から九州南岸にかけての太平洋沿岸、若狭湾、山口県萩市、長崎県、熊本県天草、五島列島、琉球列島、および南大東島から記録されており (田中, 1917; 菊池, 1970; 島田, 2013; Kuriwa et al., 2014; 田城ほか, 2017; 園山ほか, 2020)、本研究によって甌島列島における分布も確認された。

**備考** 下甌島産の標本は、吻端が丸みを帯びること、眼の中央が吻端と尾鰭基底中央部を結んだ線上に位置すること、眼隔域が張り出すこと、円錐歯が両顎の外側に1列に並ぶこと、鋤骨と口蓋骨上に絨毛状歯が密生すること、背鰭と臀鰭は被鱗せず、両鰭の後ろから2番目の軟条が糸状に伸長すること、背鰭外縁に顕著な欠刻がないことなどが Allen (1985) や Anderson and Allen (2001) によって定義された *Paracaesio* の標徴と一致した。また、尾鰭後縁が深く湾入すること、側線有孔鱗数が70であること、体側上部から尾鰭にかけて黄緑色域を呈すること、尾鰭上葉長が体長の36.3%を占めることなどが Allen (1985) や Anderson et al. (1992), Anderson and Allen (2001), White and Last (2012), および島田 (2013) によって報告された *P. xanthura* の標徴とよく一致したため、本種に同定された。

ウメイロは体側上半部が黄色を呈する独特の色彩から、同属他種とは容易に識別される。なお、ウメイロはユメウメイロ *Caesio cuning* (Bloch, 1791) やウメイロモドキ *Caesio teres* Seale, 1906 などの一部のタカサゴ科タカサゴ属魚類 (Fig. 2) と色彩が酷似し、混同されがちであるが、背鰭と臀鰭が被鱗しない (タカサゴ属魚類では背鰭と臀鰭の基底部付近に小鱗が密生する) ことで識別される (Carpenter, 2001)。

ウメイロは田中 (1917) によって長崎市場に水揚げされた標本に基づき *Vegetichthys tumidus* として記載されて以降 [現在 *V. tumidus* は *P. xanthura* の新参異名とされている; Allen (1985)],



Fig. 2 Fresh specimens of species of Caesionidae (upper: *Caesio cuning*, KAUM-I. 97647, 212.4 mm SL, Iriomote Island, Yaeyama Islands, Japan; lower: *Caesio teres*, KAUM-I. 122300, 203.8 mm SL, Okinoerabu Island, Amami Islands, Japan).

神奈川県三浦市毘沙門沖 (山田・工藤, 2001), 城ヶ島東方 (工藤ほか, 2019), 伊豆半島 (岩槻, 1997), 静岡県熱海市 (瀬能ほか, 1998), 三重県 (片岡・富田, 1981), 和歌山県串本・みなべ (池田・中坊, 2015), 高知県南西部 (井田, 1971; 柳下, 2001), 宮崎県門川湾 (三木, 2019), 鹿児島県内之浦湾 (小枝, 2018, 2020; 公益財団法人鹿児島市水族館公社, 2018), 鹿児島湾 (今井・中原, 1969), 八丈島 (東京都水産試験場, 1985; 古瀬ほか, 1996; Senou et al., 2002; 加藤, 2011, 2014), 豆南諸島 (Kuriwa et al., 2014), 小笠原諸島 (出口, 1969; 倉田ほか, 1971; 座間・藤田, 1977; 青木, 1984; Randall et al., 1997; 岩槻, 1997), 南大東島 (南大東村誌編集委員会, 1990), および尖閣諸島近海 (加藤, 2004) など, 南日本の広域から報告されている. 特に琉球列島においては報告例が多く, 大隅諸島種子島近海 (鏑木, 2016), 屋久島 (Motomura et al., 2010; Motomura and Harazaki, 2017), 口永良部島 (木村ほか, 2017), 奄美群島奄美大島 (Nakae et al., 2018; 畑, 2018, 2019), 江仁屋離島 (Nakae et al., 2018), 沖永良部島 (Motomura and Uehara, 2020), 沖縄島中城湾 (三浦, 2012), 宮古島周辺, 八重山諸島石垣島 (加藤, 2004), 西表島 (吉郷, 2014) など,

広域から多数が報告されている. しかし, ウメイロの九州以北の日本海・東シナ海沿岸における記録は少なく, 上述の田中 (1917) に加え, 道津・富山 (1967: 五島列島福江島玉之浦からウメイロが得られたことを報告), 菊池 (1970: 熊本県天草市牛深町からウメイロが得られたことを報告), 田城ほか [2017: 若狭湾沿岸に位置する京都府与謝郡伊根町新井崎から 2013 年 11 月 14 日に得られた体長 301.1 mm の 1 個体 (FAKU 135765) を報告], および河野ほか (2011) と園山ほか [2020: いずれも萩市見島沖において 2006 年 4 月 19 日に水揚げされたウメイロの写真 (KPM-NR 198106) を報告] などがある. しかし, 鹿児島県の東シナ海沿岸におけるウメイロの記録はなく, 本研究において記載をおこなった標本は本種の甌島列島ならびに鹿児島県東シナ海沿岸における初めての記録となる. ウメイロの下甌島における記録は本種の分布の空白を埋めるものであり, 本種が九州西岸に広く分布することが示唆される.

**比較標本** ユメウメイロ *Caesio cuning*: KAUM-I. 97647, 体長 212.4 mm, 沖縄県西表島; ウメイロモドキ *Caesio teres*: KAUM-I. 122300, 体長 203.8 mm, 鹿児島県沖永良部島.

## 謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり, 原口百合子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた. 標本の採集に際しては, 田中水産の田中 積氏ならびに鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆様にご多大なご協力を頂いた. 以上の方々に厚く御礼申し上げる. 本研究は, 鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環としておこなわれた. 本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28-745), JSPS 研究奨励費 (DC2: 29-6652), 公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (19K23691, 26241027, 26450265, 20H03311), JSPS 研究拠点形成事業-B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホッ

トスポットの構造に関する研究プロジェクト」、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

## 引用文献

- Allen, G. R. 1985. FAO species catalogue. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalogue of the lutjanid species known to date. FAO Fisheries Synopsis 125, 6: 1-208.
- Anderson, W. D. and Allen, G. R. 2001. Lutjanidae Snappers (jobfishes). Pp. 2840-2918, Carpenter, K. E. and Niem, V. H. (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae). FAO, Rome.
- Anderson, W. D. Jr., Kailola, P. J. and Collette, B. B. 1992. Two new snappers (Teleostei: Lutjanidae: Apsilinae): *Paracaesio paragrapsimodon* Anderson and Kailola from the western Pacific and *P. waltervadi* Anderson and Collette from the western Indian Ocean. Proceedings of the Biological Society of Washington, 105 (3): 443-461.
- 青木雄二. 1984. 底魚一本釣りによって釣獲される魚種について. Pp. 1-22. 東京都水産試験場技術管理部 (編), 小笠原諸島海域における底魚資源に関する研究—I. 東京都水産試験場, 東京.
- Campos, W. L. 2017. *Paracaesio xanthura* (Bleeker 1869). P. 135, Motomura, H., Alama, U. B., Muto, N., Babaran, R. P. and Ishikawa, S. (eds.) Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- Carpenter, K. E. 2001. Caesionidae, fusiliers. Pp. 2941-2941, pls. XI-XII, Carpenter, K. E. and Niem, V. H. (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae), FAO, Rome.
- 出口吉昭. 1969. 小笠原沿岸の魚類. 東京獣医学畜産学雑誌, 17: 25-27.
- 道津喜衛・富山一郎. 1967. 西海国立公園の海産魚類. 長崎大学水産学部研究報告, 23: 1-42.
- 江口慶輔・本村浩之. 2016. フェダイ科ヨゴレアオダイ *Paracaesio sordida* の種子島と奄美大島からの記録. Nature of Kagoshima, 42: 219-223.
- 古瀬浩史・瀬能 宏・加藤昌一・菊池 健. 1996. 魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録された水中写真に基づく八丈島産魚類目録. 神奈川自然誌資料, 17: 49-62.
- 畑 晴陵. 2018. フェダイ科. Pp. 155-168. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編), 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- 畑 晴陵. 2019. フェダイ科. Pp. 158-171. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編), 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Hata, H., Iwatsubo, H. and Motomura, H. 2017. First records of the cocoa snapper *Paracaesio stonei* (Perciformes: Lutjanidae) from the Satsunan Islands, Japan. Fauna Ryukyuna, 36: 55-62.
- 井田 齊. 1971. 高知県大月町及び沖ノ島付近の魚類. Pp. 42-101. 財団法人海中公園センター八重山研究所 (編), 海中公園センター調査報告 高知県海中公園計画学術調査書. 財団法人海中公園センター, 東京.
- 池田博美・中坊敬次. 2015. 南日本太平洋沿岸の魚類. 東海大学出版部, 秦野. 597 pp.
- 今井貞彦・中原官太郎. 1969. 錦江湾海中公園候補地の魚類相. Pp. 51-82. 鹿児島県 (編), 霧島・屋久島国立公園錦江湾海中公園調査書. 鹿児島県, 鹿児島.
- 岩槻幸雄. 1997. ウメイロ *Paracaesio xanthurus*. P. 338. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), 山溪カラー図鑑 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 籾木統一. 2016. 種子島の釣魚図鑑. たましだ舎, 西之表. 157 pp.
- 片岡照男・富田靖男. 1981. 三重県の魚類相. 三重県立博物館研究報告, 3: 1-110.
- 加藤美奈子. 2004. 資源動向調査 (マチ類). Pp. 99-102. 沖縄水産試験場 (編), 平成 14 年度沖縄県水産試験場報告. 沖縄県水産試験場, 糸満.
- 加藤昌一. 2011. ネイチャーウォッチングガイドブック海水魚. 誠文堂新光社, 東京. 303 pp.
- 加藤昌一. 2014. ネイチャーウォッチングガイドブック改訂新版 海水魚. 誠文堂新光社, 東京. 383 pp.
- 河野光久・堀 成夫・土井啓行. 2011. 2005-2009 年の山口県日本海域における海洋生物に関する突起的現象. 山口県水産研究センター研究報告, 9: 1-27.
- 菊池泰二. 1970. 天草臨海実験所近海の生物相. 第 8 集, 魚類. 九州大学天草臨海実験所, 苓北. 52 pp.
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- 小枝圭太. 2018. ウメイロ. P. 282. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編), 黒潮あたる鹿児島島の海内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2020. ウメイロ. P. 343. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編), 大隅市場魚類図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 工藤孝浩・山田和彦・瀬能 宏. 2019. 三浦半島南西部沿岸の魚類 IX. 神奈川自然誌資料, 40: 49-58.
- 倉田洋二・三村哲夫・草処幸一. 1971. 小笠原諸島の魚類相と漁獲量の傾向. 小笠原諸島水産開発基礎調査報告 II. 東京都水産試験場出版物通刊, 216: 1-38.
- 公益財団法人鹿児島市水族館公社. 2018. かがしま水族館が確認した鹿児島島の定置網の魚たち 増補版. 公益財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島. 335 pp.
- Kuriwaa, K., Arihara, H., Chiba, S. N., Kato, S., H. Senou and K. Matsuura. 2014. Checklist of marine fishes of the Zunan Islands, located between the Izu and Ogasawara (Bonin) islands, Japan, with zoogeographical comments. Check List, 10 (6): 1479-1501.
- 三木涼平. 2019. ウメイロ *Paracaesio xanthura*. Pp. 120-121. 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編), 宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡.
- 南大東村誌編集委員会 (編). 1990. 南大東村誌 (改訂). 南大東村役場, 南大東. xx + 1230 pp., 29 pls.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.

- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. and Harazaki, S. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1-183.
- Motomura, H., Kuriwa, K., Katayama, E., Senou, H., Ogihara, G., Meguro, M., Matsunuma, M., Takata, Y., Yoshida, T., Yamashita, M., Kimura, S., Endo, H., Murase, A., Iwatsuki, Y., Sakurai, Y., Harazaki, S., Hidaka, K., Izumi, H. and Matsuura, K. 2010. Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Pp. 65-247, Motomura, H and Matsuura, K. (eds.) Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- Motomura, H. and Uehara, K. 2020. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 12: 1-125.
- Nakae, M., Motomura, H., Hagiwara, K., Senou, H., Koeda, K., Yoshida, T., Tashiro, S., Jeong, B., Hata, H., Fukui, Y., Fujiwara, K., Yamakawa, T., Aizawa, M., Shinohara, G. and Masuura, K. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Memoirs of National Museum of Nature and Science, Tokyo, 52: 205-361.
- Randall, J. E., Ida, H., Kato, H., Pyle, R. L. and Earle, J. L. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. National Science Museum Monographs, 11: 1-74.
- 瀬能 宏・牧内 元・武谷 洋. 1998. 魚類写真資料データベース (KPM-NR) に登録された水中写真に基づく熱海産魚類目録. 神奈川自然誌資料, 19: 19-28.
- Senou, H., Shinohara, G., Matsuura, K., Furuse, H., Kato, S. and Kikuchi, K. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island. Izu Islands Group, Tokyo, Japan. Memoirs of the National Science Museum, 38: 195-237.
- 島田和彦. 2013. フエダイ科. Pp. 913-930, 2001-2004. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 園山貴之・荻本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1-152.
- Tanaka, F. 2019. Lutjanidae. Pp. 776-807, Koeda, K. and Ho, H.-C. (eds.) Fishes of southern Taiwan. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung.
- 田中茂穂. 1917. 日本産魚類の 11 新種. 動物学雑誌, 339: 7-12.
- 田城文人・鈴木啓太・上野陽一郎・船越祐貴・池口新一郎・宮津エネルギー研究所水族館・甲斐嘉晃. 2017. 近年日本海南西部海域で得られた魚類に関する生物地理学的・分類学的新知見—再現性を担保した日本海産魚類相の解明に向けた取り組み—. タクサ, 42: 22-40.
- 東京都水産試験場. 1985. 昭和 56 ~ 58 年度 指定調査研究総合助成事業 漁業技術部門 ハマトビウオ漁具漁法改良試験報告書. 東京都水産試験場技術管理部, 東京. 59 pp.
- White, W. T. and Last, P. R. 2012. *Paracaesio brevidentata* n. sp., a new snapper (Lutjanidae: Apsilinae) from Indonesia. Zootaxa, 3418: 51-68.
- 柳下直己. 2001. ウメイロ. P. 209. 中坊徹次・町田吉彦・山岡耕作・西田清徳 (編), 以布利黒潮の魚 ジンベエザメからマンボウまで. 海遊館, 大阪.
- 山田和彦・工藤孝浩. 2001. 三崎魚市場に水揚げされた魚類 X. 神奈川自然誌資料, 22: 43-50.
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録, Fauna Ryukyuna, 9: 1-153.
- 座間 彰・藤田 清. 1977. 小笠原諸島産魚類目録. 東京水産大学特別研究報告, 63 (2): 87-138.